

有料会員限定 記事 今月の閲覧本数： 1 本 登録会員の方は月 10 本まで閲覧できます。

「病は気から」仕組み解明 北大など 脳内の微小炎症が引き金

2017/9/4付 | 日本経済新聞 夕刊



「病は気から」と昔からいわれるが、慢性的なストレスが消化器の機能障害や突然死をもたらす仕組みを、北海道大などの研究チームがマウスの実験で初めて明らかにした。ストレス性の病気や突然死の予測に役立つという。論文は4日までに、国際科学誌イーライフに掲載された。

北大遺伝子病制御研究所の村上正晃教授らは、マウスに睡眠障害を起こして慢性的なストレスを与える実験を実施。自分の組織を攻撃してしまう免疫細胞（病原T細胞）を静脈に注射すると、胃や十二指腸の炎症、出血が引き金となり、心臓機能が低下して突然死した。ストレスのみを与えた場合や、ストレスを与えず病原T細胞を注射しただけの場合、死ぬマウスはいなかった。突然死したマウスを詳しく調べると、病原T細胞が脳の特定部位に集積して微小な炎症を起こしていた。

〔時事〕

【秋割】実施中！日経電子版が10月末まで無料。今すぐ登録！

電子版の記事がすべて読める有料会員のお申し込みはこちら

有料購読のお申し込み

日経平均(円) 9/4 大引	19,508.25	-183.22	-0.93%
NYダウ(ドル) 9/1 終値	21,987.56	+39.46	+0.17%
日経アジア 300 9/4 19:02	1,292.00	-7.40	-0.56%
ドル(円) 9/4 18:42	109.53-54	-0.64円高	-0.58%
ユーロ(円) 9/4 18:42	130.48-52	-0.46円高	-0.35%
長期金利(%) 9/4 15:30	-0.010	-0.005	
NY原油(ドル) 9/4 5:52	47.43	+0.14	+0.29%

日経平均について (銘柄一覧)

Quick

最新のビジネス
イベント、セミナー
情報が満載

最新のビジネス情報をお探しの方へ

日経BizGate イベントガイド